発刊にあたって

福井県は、豊かな山並みと日本海、これによる豊富な水、四季の変化に富んだ気候に加えて、水源となる広葉樹林、複雑に入り組んだ谷筋、よく手入れの行き届いた水田や畑地等が山間部にまで広がり、古くから人と自然が共生する美しい里地里山の景観が広がっています。

また、奥山から里山、農地、川、海、湖といった多様なタイプの自然環境が比較的まとまった地域に広がっており、私たちの身近なところで多様な生物や生態系をみることができます。

さらに、本県は日本列島のほぼ中央に位置し、国内での分布の北限または南限となる生物や、北方系と南方系の生物がみられるなど、生物学的にも特徴的なものとなっています。これら豊かな自然環境や生物多様性は地域固有のものであり、ここから生みだされる水や食べ物など様々な自然の恵みは、古来より本県に暮らす人々にとって当たり前のものとして、享受されてきました。

しかし、近年、都市化の進展や開発行為に伴う環境改変、また、人口減少にともなう里地里山の荒廃により、かつてあったような人と生物との共生の仕組みが失われつつあります。さらに、本来その地域にいない外来生物の侵入による在来生物の捕食や生息場所の奪取等により、地域固有の生態系や生物多様性が失われようとしています。

福井県では、1985 年に本県の豊かな自然環境や在来生物を保全するため、県内に生息する動植物の分布状況等を取りまとめた「みどりのデータバンク」を作成し、定期的な調査によるデータ収集と更新を行ってきました。その後、2002 年および 2004 年には、本県の絶滅の恐れのある動植物の現状について評価した「福井県レッドデータブック（2002）動物編」および「福井県レッドデータブック（2004）植物編」をはじめて作成し、本県の動植物の保全対策に役立ててきました。

このたび、2012 年から 2014 年にかけて、絶滅の恐れのある野生動植物の現地調査と文献調査を実施し、その成果として最新の知見を盛り込んだ「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」を発刊いたします。

本書が多くの県民の皆様に野生生物への理解と関心を深めていただくとともに、本データが希少な野生動植物の保護やその生息域となっている地域固有の自然環境の保全のための基礎資料として活用されることを願っております。

終わりに、本書の作成にあたりまして、多大な御協力をいただきました福井県レッドデータブック改訂事業検討委員会および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

福井県安全環境部自然環境課